

地域計画

策定年月日	令和7年3月25日
更新年月日	令和7年12月26日 (第1回)
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	孺恋村 10425
地域名 (地域内農業集落名)	その他地区 (大前、門貝、鎌原、芦生田、袋倉、今井)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	484 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	484 ha
② 田の面積	8 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	456 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	52 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	77 ha
(参考)区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	ha
(備考)	

- 注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。
 2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。
 3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。
 4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。
 5:(参考)の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。
 6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

- ・その他地区の人口は年々減少し遊休農地は増えている。
- ・崖縁や山間などにある狭小な昔ながらの農地は、使い勝手も悪く今後の利用は見込めない。また、山腹に分散しているため鳥獣被害(さる等)がひどく耕作意欲を削がれ離農してしまう。崖崩れも年々広がっている。
- ・水稻作後継者の減少。
- ・浅間開拓及び仙之入地区等の農作業道及び農業用排水路施設等の維持管理。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

認定農業者等の担い手による水稻・露地野菜の作付けが行われているが、少子高齢化の影響により、年々耕作者が減少し遊休農地が増えている地域もある。優良農地は集積・集約を進め、就農者の確保、育成に努める。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1)農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
・条件の良好な農地の確保。			
・当面の間は現状維持。集積が進めば補助事業の活用。			
・当面の間は現状維持。上信自動車道整備と併せて区画整理の推進を図る。			
(2)担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	34	%	将来の目標とする集積率
			40 %
(3)農用地の集団化(集約化)に関する目標			
・農地中間管理機構を活用し中心経営体へ集積・集約する。			

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--

注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。

注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。

注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報保有に当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合は、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。